

# しあさい



赤岩神社(白糠地区)

## CONTENTS

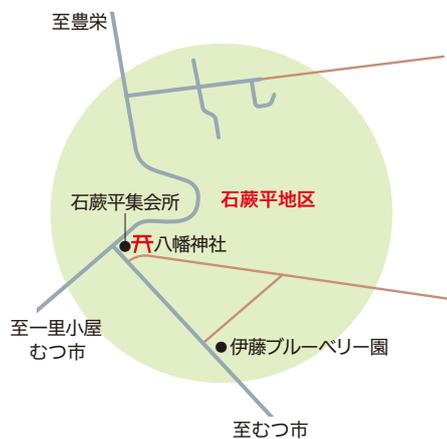
- 特集記事 シリーズ② ふるさと見聞録:石蔵平いしくらびたいを訪ねて……………2
- 明日へのかけはし:東通村魚価向上研究会……………4
- クローズアップ こんにちは元気さん:赤田あかだ 三千代みちよさん……………4
- これ!うまあ!!:アワビとウニのつや玉あんかけ……………5
- 夏秋イチゴチリソースで東通生春巻き……………5
- 地元の特派員レポート:大森おおもり 愛結あいゆさん/向井むかい 祐樹ゆうきさん……………6



海拔が高く安全な土地で協力して生活

いしわらびたいら

# 石蔵平を訪ねて



## 樺太からの引き揚げ者たちが暮らす、仲良く思いやりのある地域

むつ市にとっても近く、南はむつ市大室平、北は東通村豊栄に隣接した、海拔の高い地域にある石蔵平。元々は国有地で山林が広がっていました。1949年4月、農林省(現 農林水産省)の施策により、樺太(サハリン)からの引き揚げ者たちが入植。26軒の方々に森を切り開き、開拓した農業集落です。

入植した頃の住まいは、丸太組のログハウスで屋根は杉皮ぶき。24坪の小さな家でした。各家の敷地には、冬の冷たい西風を防ぐため、防風林を植えていました。

開拓当初の基幹産業は農業。馬鈴薯、菜種、大豆、小豆のほか、水をはった田んぼが無くても畑で米を育てられる「おかぼ」の栽培が行われていました。

入植して約10年後には、水田の開墾に挑戦したことも。近くに河川が無く、水の権利の関係で農業用水が確保できなかったことから、一部の住民は自らため池を作って田んぼを耕していました。また、収入確保のため、小さい牛や豚を数頭仕入れ、自ら作ったビート(家畜の飼料としても利用される根菜)を餌に肥育し販売する住民もいました。

インフラについては、1982年から1986年にかけて村道整備事業による石蔵平・豊栄上流線が、1992年に村営水道が整備されました。

昔は、道路も幅3メートル程度しかない砂利道で、地域の住民がふみつぶしながら歩いていたり、1メートル以上の雪が積もる豪雪地帯だったため、子ども

たちはスキー板をつけて登下校していました。今は除雪が入るため、安心して通行できます。

地区の人口が最大だったのは1960年ころ。30世帯171人が暮らしていました。若者や子どもが多く、非常ににぎやかだったそうです。1965年には、農繁期の季節保育所も開設されたそうです。

当時、各家庭に子どもは6~7人ほどおり、1963年に田屋小学校石上分校ができるまでは、むつ市立開拓中学校へ通っていました。

その頃には、石蔵平と、近隣の一里小屋、豊栄の3つの地区が一緒になって青年会を結成。「三睦会」と名付けて親睦を図っていました。子どもたちのために、盆踊りなどのイベントを定期的開催。むつ市からわざわざねぶたを借りてきて、子どもたちと一緒にねぶたを引っ張り、地区内を練り歩いたこともありました。

1993年には33世帯118人となり、徐々に人口は減少してきました。現在は高齢化が進み、農家もブルーベリーを育てて観光農園を行う方など3軒に減少。住民のほとんどが仕事から離れ、穏やかに暮らしています。

引き揚げ者による地区のため、近くに頼る親戚がいなかったことから、冠婚葬祭などさまざまな場面で、お互いに助け合って暮らしてきました。だからこそ地域のみんなは仲が良く、思いやりのある人たちばかりです。

現在も、できる範囲で地区の活動を継続していて、道路の草刈りをしたり、改善してほしいことを話し合い、



石蔵平地区 会長 わたべ たつお 渡部 達男さん(68歳)

石蔵平地区は、現在、世帯数16戸・人口35人の小さな集落です。65歳以上の人口が70パーセントを占め、人口も減っていますが、消滅させないためになんとかしたいと考えています。

国有地に、樺太からの引き揚げ者がまとまって居住しているのは、村内ではここだけ。

今、地区に残っているのは私たち2代目です。私たちの子ども世代のほとんどが、仕事などのためにこの地区を離れてしまいました。寂しい思いはありますが、退職後などに戻ってきてくれるとありがたいと思っています。

また、空き家を活用して移住者を受け入れたいと考えていて、昨年は村内から家族での移住がありました。移住を希望している人は、ぜひ私たちに声をかけてほしいです。



石蕨平地区

役場をお願いに行っています。

地区最大の特徴は、集落が海拔32.3メートルと高台にあること。大きな河川も山もないので、津波も洪水も土

砂崩れもない安全な場所です。昼も夜も静かで、星がとてきれい。誰もがのんびりと、のどかな暮らしができる、よい地域です。

## 八幡神社

地区の守り神である八幡神社は、現在リフォームしている石蕨平集会所(石蕨平開拓婦人ホーム)の隣にあります。

入植時に建立したのですが、水道も電気も通ってなかつ

た山の頂上に、<sup>ほこら</sup>祠の柱だけ立てていました。22年ほど前、田名部神社にお祓いしてもらい、みんながお参りしやすいよう今の場所に移しました。

年に一度の秋祭りは9月14日から15日、地区の住民が集まってお酒を酌み交わしながら交流しています。秋祭りや総会の時などに使用される

石蕨平集会所は、みんなが集まる唯一の場所として活用されています。



八幡神社の祠



石蕨平集会所(6月下旬完成予定)

石蕨平地区 副会長(前地区会長) <sup>ひらぬま</sup> 平沼 <sup>まさお</sup> 正男さん(76歳)

弘前市で生まれ、1歳になる前に樺太からの引き揚げ者だった親が親戚とともに入植しました。初めに住んでいたのは丸太組のログハウス。数年後に政府が家を建ててくれたことが、幼いときの記憶として鮮明に残っています。ここで育ち、中学卒業後、15歳で東京に出て働きました。7人兄弟の4番目でしたが、1981年に親の世話をするために、妻と小学生と保育園の子ども2人の4人で戻って来ました。

当時、畑中村長のお父さんが石上分校の校長先生でした。東京から戻った自分たちに「何も心配しなくていいんだよ」と励ましてくれたのを覚えています。

地区の皆さんはいい人ばかり。人がいいからこそ、ここに長く住み続けられるのだと思います。



# 明日への かけはし

## 東通村の頑張るグループを紹介 魚に付加価値をつけ、価格向上を目指そう！ [東通村魚価向上研究会]

東通村の若手漁師が地域の枠を超えて集まり、村で獲れた魚の処理技術や熟成技術などを改善し、魚に「付加価値」をつけることで価格向上に向けて取り組んでいるのが、「東通村魚価向上研究会」です。

村が若手漁師を対象に開催している「漁師円卓会議」をきっかけに、2025年1月、尻労、小田野沢、入口の3地区の漁師と、漁業に関心を持つ20代から40代の15人で結成。月1回「ゲストハウスはれのち」などで活動しています。

具体的な活動としては、「青森県産



ヒラメのフィレ加工に挑戦



ワカメの塩蔵方法を研究

業技術センター 下北ブランド研究所（むつ市大畑町）」でのヒラメの研究。捕獲したヒラメの旨み成分が最も増す時期を調査したり、飲食店などで調理しやすいよう五枚におろすフィレ加工技術をプロの加工業者から指導してもらっています。

会長の伊柳亮太さん(29)と副会長の林良一さん(39)、高橋隆司さん(38)は「魚の漁獲量が減った今、一匹の魚の価値を上げるため、とにかくやれることからやってみようと思っています。実際に取り組んでみて、加工のため

に必要な一定量のヒラメを確保することや、プロの加工技術が難しいことがわかりました」と一筋縄ではい



会長の伊柳さん(写真中央)を囲む東通村魚価向上研究会メンバー

かない現状を振り返る一方で、「活動を通じて村内の漁師が交流できたことは、一つの成果だと感じています」と現状を前向きに捉えています。「そして今、最も力を入れているのは、漁獲量が少なく市場で価格をつけることが難しい魚を飲食店に直送したり、収穫時期に多くとれすぎていて自家消費していたワカメを年間を通じて出荷するための保存方法の研究です」と、並行して他の課題にも果敢に挑戦しています。

最後に3人は、「将来は、研究会に入っていない漁師にも、魚の品種ごとの付加価値向上に向けた情報発信や、魚を捌いたり売ったりする場所を見つけて提供できればと考えています。そして、村全体でメンバーを増やしていきたい」と展望を明るく語ってくれました。

村内で元気に活動する人を紹介!

## アッコ こんにちは 元気さん

白糖婦人会の会長として、郷土芸能や奉仕活動などパワフルに活動!

元気さん

あかだ みちよ  
赤田三千代さん(57歳)

白糖婦人会の会長として、さまざまな活動に取り組む赤田三千代さんにお話を伺いました。

東通村白糖で生まれた赤田さんは、高校を卒業後、兵庫県から下北まで、日本各地を回るバスガイドとして8年間活躍しました。Uターン後は、同じ白糖地区で幼なじみだったご主人と結婚し、漁師の妻に。イカ漁をメインに、ヒラメやマス、マグロの一本釣りなども行っています。地元の婦人会では副会長を経て、昨年会長に就任しました。

会長になって最初に行ったのは、東北電力 女川原子力発電所の視察です。「最後に見学したのは20年以上も

前でした。せっかくの機会だったので、白糖だけでなく、隣の老部にも声をかけて合同で開催したところ、非常に喜ばれました」。

次に取り組んだのは、村で開催している東通村郷土芸能保存連合会発表会への参加です。「婦人会に若い人も入ったので、伝統を受け継ぐ意味でも参加してよかった」と意義と成果を振り返ります。

そして、赤岩神社(白糖地区)に「大黒舞」を奉納し、地区内の各世帯を回ってお祓いしていた行事も、今年の春から復活させました。「回覧板で告知したので、みんな待っていてくれました。衣装も揃えることができたので、今後は老人福祉施設を回って、手踊りを披露してお年寄りたちを喜ばせたい」と前向き。

他にも、東北電力のゴミ拾いに参加しています。

モットーは「やる時はやる、遊ぶときは遊ぶ、と何事もダメ元で臨んできた」と豪快に笑う赤田さん。趣味



は、一人で楽しむドライブ。仕事がなく、天気の良い日は、ふらっと出かけるそうです。ほかにも、山菜・海藻取りなど、多彩な趣味でプライベートも大忙し。

「とにかくにぎやかな婦人会のメンバー。互いに支え合い、和気あいあいと楽しく活動しています。今後は『ひがしどおり新そば街道まつり』にも参加したい」と意欲的に語っていました。



赤岩神社に大黒舞を奉納(先頭が赤田さん)



昨年11月一本釣りで射止めた135キログラムのマグロ(写真左はご主人)



# これ! うっまあ!!

## 東通村の美味しいもので贅沢料理

自然豊かな東通村には、素晴らしい特産品がそろっています。今回は、旬の食材を使って、地元ならではのちよっぴり贅沢な料理の作り方を、野呂先生に教えていただきました。



### アワビとウニのつや玉あんかけ 6~8個分



#### 〈材料〉

【巾着】アワビ正味200g、ウニ正味50g、塩小さじ1/3、酒大さじ1、片栗粉15g、卵白1個分、木綿豆腐(水切り)100g、枝豆30g  
【銀あん】水2カップ、白だし大さじ2、酒大さじ1、塩小さじ1/3、片栗粉小さじ5、みつば少々

#### ワンポイントアドバイス

②で巾着状にするときは、ラップの上部に余裕を持たせて輪ゴムで止めるといいですよ。

#### 〈作り方〉



①アワビはサイコロ状に切って、塩、酒、片栗粉、卵白を混ぜ、ウニも混ぜます。木綿豆腐は、つぶして枝豆と共に混ぜます。

②①を6~8等分してラップにのせ、巾着状にして輪ゴムで口を止めます。

③浅鍋にお湯を沸かし②を入れ、弱火で10分ほど茹で、火を止めて5分間そのままおきます。



④茹でている間に銀あんの材料を全て小鍋に入れ、かき混ぜながらとろみがつくまで沸騰させます。

⑤③のラップを外して器に盛り、銀あんを上からかけ、みつばを飾ります。

### 夏秋イチゴチリソースで東通生春巻き 8~12本分



#### 〈材料〉

【生春巻き】東通牛200g、塩適量、ブラックペッパー適量、ミズダコ200g、オリーブオイル大さじ1、ライスペーパー1袋、春雨30~40g、サニーレタス1株、青じそ10枚、新玉ねぎ1/4個、きゅうり1本  
【イチゴソース】夏秋イチゴ80g、スイートチリソース大さじ2、ナンプラー大さじ2、レモン果汁大さじ2、塩小さじ1/5

#### ワンポイントアドバイス

ライスペーパーを巻くとき、具材が動かないよう押さえながら巻くときれいにできます。

#### 〈作り方〉

①牛肉に塩とブラックペッパーをふり軽く焼きます。ミズダコはうす切りにし、塩少々、ブラックペッパー、オリーブオイルで和えます。春雨は熱湯で戻し洗って水を切り、新玉ねぎは薄切り、きゅうりはせん切りにします。



②夏秋イチゴをフォークなどでつぶしスイートチリソース、ナンプラー、レモン果汁、塩を混ぜて、夏秋イチゴチリソースを作ります。

③ライスペーパーを半分に切ってぬるま湯で戻し、サニーレタス、春雨、青じそ、牛肉やミズダコ、新玉ねぎ、きゅうりをのせて巻きます。

④器に盛り付け、夏秋イチゴチリソースを添えます。



### のろひろこ 〈野呂浩子先生のプロフィール〉

管理栄養士。むつ市で、ローズスイーツクリエイター青森認定校「ヒロ クッキングサロン」を運営。地元の旬の食材をいかして、心と身体の健康のための料理教室を開催しているほか、イベントや出張料理教室も行っています。

※ローズスイーツは、生の食材で作るスイーツのこと。生の食材を使うことで、その食材の持つ酵素をそのまま摂取でき、体にやさしいスイーツができます。



村内各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

# 地元の特派員レポート

写真は特派員が  
自ら撮影したものです。



## 愛され続ける 旧蒲野沢小学校

東通村蒲野沢在住 おおもり あいゆ  
東通小学校(5年) 大森 愛結さん(10歳)

私は、まだ建物が残っている「旧蒲野沢小学校」について興味があり調べてみました。

まずは、旧蒲野沢小学校出身の祖父と母から思い出など話を聞きました。

1875年に創立され、2005年3月に130年もの長い歴史に幕を閉じ閉校になったそうです。

5月は家族総出で参加した運動会。夏はグラウンドでテントに一泊したキャンプ。秋は先生方も出し物をする学芸会。冬は蒲野沢地区にあった向山スキー場でのスキー教室。「どの行事も、地域のみなさんが一丸となって参加し協力してくださった

ことが1番心に残っていて、建物にはその思いがたくさん詰まったままだし、将来取り壊しになっても永遠にその思いは消えない」と話していました。

なんだかとてもあたたかい気持ちになりました。



旧蒲野沢小学校



思い出のグラウンド



蒲野沢小学校閉校記念誌



## 尻労の未来

むかい ゆうき  
東通村尻労在住 向井 祐樹さん(49歳)

私の住んでいる尻労。まず「シツカリ」と読めるでしょうか?また、尻労に來たことはありますか?

東通村の中でもマイナーな尻労ですが、私は大好きです。まず、尻労の集落名は、アイヌ語で「行き止まり」を意味する「シツヌカリ」に由来します。ご存じでしたでしょうか?

また、昔からここ尻労は漁業が盛んな集落で、定置網、刺網、一本釣り、底建網などで、マグロ、イカ、サケ、ヒラメなど

豊富な魚種が獲れます。その昔は、マグロが定置網に千本も獲れたこともあり、「八竜神(はちりゅうじん)」と呼ばれる記念碑があります。

イカ漁は、昔は夜イカ釣り漁が全国的にも主流でしたが、現在主流の昼イカ釣り漁は、なんとここ尻労が発祥の地なのです。尻労の前沖には、たくさんのイカが集まり、漁場への距離も近いなどの環境もあり、昼イカ釣り漁が盛んに行われていました。そんなイカやサケも、現在は大不漁です。

いろいろなことが転換期の中にある尻労を今の時代を生きる私たちは、どのように未来へつなげていけるのか、日々悩み考えています。太平洋岸に砂丘があり、「能舞」の継承も行われている尻労。子どもや孫たちに、尻労や東通村を大好きになってもらえるように継承していくことが使命と思いながら、仕事、生活をしていきたいと考えています。「シツカリ」へ一度訪れてみてください。あなたも好きになるかも?



昼イカ漁発祥の地記念碑



八龍神の石碑



尻労から臨む猿ヶ森砂丘

## 東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4  
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227



しおさい、PSつうしんの  
バックナンバーはこちら

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に  
末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

## 編集後記

しおさい第32号、いかがでしたでしょうか?

野呂先生にご協力いただいた「これ!うつまあ!!」、取材のために、東通村の特産品に目も心もおなかも奪われるのですが、今回は取材を通じ「浜尻屋貝塚」の存在を知りました。ご存知の方も多いかと思いますが、尻屋地区にあるこの貝塚は、14世紀前半から15世紀末頃のものとして推測されており、大量のアワビの貝殻が出土し、干しアワビの加工・生産をしていた痕跡も確認されています。また、中世アイヌ文化との関連をうかがわせる骨角器類をはじめ、他地域との交易が伺える品々も出土しており、歴史的・文化的にも国内で高い評価を受けている遺跡だそうです。この東通の地で約600年前から食されているアワビを、現代でも変わらずに味わえることに深い感動を覚えるとともに、また一つ東通村の歴史と文化への理解と愛情が深まりました。

今後も、東通村の皆さまに親しんでいただける誌面づくりに努めてまいりますので、引き続きご愛読のほどよろしくお願いいたします。